

研究のあしあと 4

令和 6 年度 久美浜小学校研究推進部

令和 6 年 12 月

生活科 2 年次研究協議会では、福富先生に公開授業をお世話になりました。「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」では、素材の良さをみつけたり、友達と比べたりして、自分だけのおもちゃをつくっていきます。まずは、資料室を生活科ルームにするなど、環境を整えるところから始めました。参観では、自分たちで集めた材料を使って、一人で黙々と作業したり友達と相談し合ったり、子どもたちが時間いっぱい課題に取り組む姿が見られました。

11 月 21 日（木）5 校時 生活科 2 年次協議会
「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」
2 年生 授業者 福富 康子



研究主題とのかかわり

1～3 次まではより自分の作りたいおもちゃや遊び方を考えたり、創意工夫を図ったりできるよう、単元内自由進度学習に取り組ませたい。その中で、友達のおもちゃと比べたり、更に工夫・改善を行ったりするなど、友達との関わりを通して、自分のおもちゃの良さや遊び方の工夫など自分の成長や変化にも気付くような仕組みを手引きで示していきたい。そして、それらの活動を十分味わった上で、「みんなでおもちゃランドを開こう」という協働の活動を設定し、より他者と関わったり「もっと楽しさを広げたい。」という思いや願いを持って更なる活動へと繋いだりできる児童を育てたい。

事前研究会 9 月 11 日（水） 司会 川上 記録 岡田

◎授業者・ブロックから

- ・1～3 次までは、自由進度学習で行い、4 次は全体で学習する。「1 年生や保育園に楽しんでほしい」という気持ちにつなげるためには、自分たち自身がおもちゃランドを楽しむ必要がある。
- ・「世界にひとつだけ」のおもちゃを作る（一人一つ）。自分、友達のおもちゃの良いところを見つけ、試行錯誤していく。
- ・教科書のおもちゃを見せると寄ってしまう。子どもたちが持ってきた材料を使って遊ぶことで、その材料ならではの面白さに気付ける。1 次で触るとき、加工せず、そのまま何か遊びを考えさせる。

◎質問等

- ・「堪能させる」・「味わわせる」ためにどんな工夫をするか。
→とにかく材料をたくさん集める。材料ごとに分け、集めたものをたくさん触る。
友達だけでなく、自分のいいところにも気付けるようなワークシートを作成し、触って体験する、比較する。
- ・自由進度学習の評価が難しい。つぶやきとかがすべて拾えるわけではない中、どのように評価するのか。
→「星印以外はやらなくてもいい」となると、提出物で判断するだけになる。提出物を持ってきたとき、すぐに判断せず、こちらからたくさん聞く。つぶやきなどは正直わからない。
→ワークシートに「友達からもらった一言」などがあると、つぶやきやそれに対する反応もわかるかも。

事後研究会 11月21・27日

参観の視点

① 学習者主体の授業になるための学習方法、支援はどうであったか。

○環境

- ・ 自分たちで材料を集めたり、教室を整備したりと環境づくりが大きな支援になっていた。やってみたいという意欲につながっていた。
- ・ じっとしているのがしんどい子にとって、動き回れることがその子を落ち着かせていることができる要素もある。
- ・ 選択して自己決定する場が多くあることが個別最適だった。

○支援

- ・ 困った子どもがいたとき、「〇〇ちゃんが同じもの作っていたよ。」と声をかけ、子どもと子どもをつないでいた。
- ・ 大きなスパイラルだけでなく、小さなスパイラルも大切。



② それぞれが自分の課題を持ち、主体的に動いていたか。

○子どもの様子

- ・ 黙々と1時間頑張っていたが完成しなかった。ただ、本人が満足していたのならよいのではないかな。
- ・ 授業時間が始まるとすぐに取り組んでいた。誰もが、何をすべきか理解していた。
- ・ それぞれの子が自分のタイミングで、今言いたいこと、今見せたいこと、など待たなくてもいいということが生き生きとさせることにつながる。



○交流

- ・ お互いに見せ合ったり、相談し合ったりする時間を取ると解決の糸口が見つけられる子もいるかもしれない。
- ・ 他の子どもに見てもらい、「いいね！」と伝えてもらうことで自信につながる。

協議の柱

◎自由進度学習における評価の在り方、評価方法や見取りについて

○振り返り

- ・ 振り返りがあってもよいのではないかな。子どもから振り返りを聞くことで、把握できることもある。
- ・ 「見取り」と「振り返り」が大切になるのではないかな。振り返ることで友達の意見を聞いて、自分の活動にいかすことができる。
- ・ 1時間の中でそれぞれの達成目標を明白にすると、振り返りにもいさせる。

○方法

- ・ たくさんの場面で子どもの声をたくさん拾うことが大切。
- ・ 単元を通して、時間ごとにどこでどの評価を取るのか計画していれば、毎時間の評価でなくてもよいのではないかな。
- ・ 改良前と改良後の変化を写真で撮ってロイロで送るのもよい。
- ・ 成果物の評価では、言葉で伝えるのが苦手な子どもにどう対応するのか悩む。



授業を終えて 授業者より

今回、2回目の「単元内自由進度学習」を進めるにあたり、事前に単元の構成を児童と共に考え、組み立てることを行った。1つの単元を自分で調整して決まった時間内で進めることは2年生の児童にとって大変難しいことであるように思う。

1時間にする内容、★マークすべてをこなす見通し、それらを自分で構成していくためには、ゴールが明確でどのような学習内容があるかしっかりとわかっているべきだと考えたからだ。しかし、今回も★を全てクリアできなかった児童がいた。これは、学習内容を到達できていない（評価もできない）ということになってしまう。

今回、研究授業をし、事後の研究協議の中でたくさんの意見をいただく中で、その1時間で児童一人ひとりが「めあて」を設定し、1時間が終わる時には「振り返り」を必ず行うことで、見通しが持てたり単元のゴールに近付いていたりしていくことが分かった。低学年ということを考えると難しいように感じたが、実は毎時間そういった力を積み重ねていくことが、児童に見通しを持つ力を付けるのだと感じた。また、伴走していただく先生がいてくれることも、担任としてはとても心強かった。評価していく中で見切れていない児童の様子を把握して教えていただいたり、ゴールに近付くための声掛けをしていただいたりした。声掛けの難しさ等はあるが、人的環境が整うということがまずクリアされないと、公平に評価できないと感じた。

今回も「やってみてわかること」が盛りだくさんで、貴重な勉強の場をいただいたと思います。たくさんのことを一緒に考えていただき、ありがとうございました。



今後の方向性について

今回、子どもたちが「自分がやりたいこと・やるべきこと」を考え、時間いっぱい「没頭する姿」を観させていただきました。自由進度学習の評価をしていくうえで、以下の点が欠かせないと学びました。

- ① 子ども自身が振り返りをする。
 - ・ 授業の初めに個人の1時間のめあてを明確にしておき、自分自身を振り返ることで、自分の成長や変化に気づくことができる。
 - ・ 写真撮影などICTを活用すると、変化が目に見えてわかりやすくなる。
- ② 多くの教員で子どもたちを見取る。
 - ・ 子どもの気付きやつぶやきをたくさん拾ったり、課題の向き合い方や他者との関わりなどを詳しく見たりすることで、子どもたちをより正しく見取ることができる。
 - ・ 危険を伴ったり、複雑であったりする作業を行う子どもを見守ることができる。
- ③ 単元が始まる前から子どもたちと一緒に準備をし、十分に環境を整える。
 - ・ 単元を通して、どの場面でどのような支援や評価をするのか考える。
 - ・ 子どもたちの「やりたい」という意欲を引き出すことが主体性につながる。
 - ・ 子ども同士をつなぐことで課題解決や発展的な学習につながる。

